



2月12日(金)～14日(日)

鳥取で友だちがたくさんできたよ 読谷村の子どもたちが民泊や初スキーを体験

沖

縄県読谷村渡慶次自治子ども会から13人の子どもたちが2月12日から3日間、伯耆町で民泊やスキーなどを体験する教育交流事業「冬の交流」を行いました。

12日夕方に到着した子どもたちは、町内の家庭で民泊。「温泉に連れて行ってもらった」「友だちがたくさんできた」など、うれしそうに話していました。2日目は、ほとんどの子が初めてというスキーを体験。雨が降って気温も低い中、朝9時から午後3時まで楽しそうに滑っていました。

最終日は、互いの地域に伝わる音楽や踊りを披露する文化交流会を、鬼の館で行いました。伯耆町は、鬼面太鼓、傘踊り、南京玉すだれや獅子舞のほか、どじょうすくい、絶妙な腰ふりを披露し、会場を沸かせました。

一方、渡慶次の女の子たちは、子どもをおぶってサトイモ粥を作る母親を表現した、「ちんぬくじゅーしー」を踊りました。また、男の子たちは沖縄伝統の桃色の獅子舞で登場し、獅子が後ろ足で立ち上がったように見える難しい技を何度も成功させ、会場から大きな拍手が起きました。



▲サトイモ粥を作る母親を踊りで表現



▲獅子の立ち技に拍手喝采

2月27日(土)～29日(月)

700人が訪れる食と芸術の祭典 二部地区恒例「たたらまつり」開催

毎

年恒例、二部地区の文化祭「たたらまつり」が二部公民館で開催され、2月27日から29日の3日間で、700人が詰めかけました。

会場では、二部地区の農産物と加工品の販売が行われたほか、地元野菜をふんだんに使ったきのこ汁やぜんざいが振る舞われ、来場者を喜ばせました。また、今年も作品展が行われ、公民館教室や同好会の絵手紙や生け花、地域住民の手芸品などが会場いっぱい並びました。

そして、「二部が生んだ芸術家」特別展では、彫刻家・辻晉堂さん、藤田英樹さん、書道家・山根溪石さん、洋画家・八橋誠滋さんの作品が展示されました。訪れた人たちは、山根さんが1977年の日展で特選を受賞した書など、貴重な作品を熱心に鑑賞していました。



▲会場いっぱいに飾られた作品



▲特別展示を楽しむ来場者

3月2日(水)

1日でも長く笑い声のある集落で 小町集落・伯耆バレーボールクラブが 「日本海新聞ふるさと大賞2015」受賞

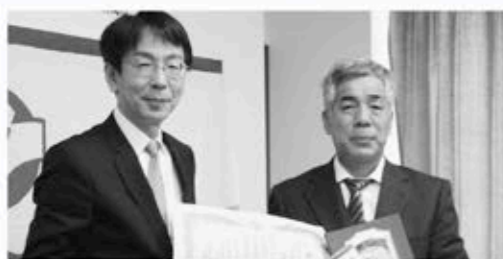
地

地域の活性化とスポーツの発展に貢献した個人・団体に贈られる「日本海新聞ふるさと大賞2015」表彰式が3月2日、伯耆町役場で行われました。伯耆町の部では、地域貢献賞に小町集落が、スポーツ功労賞に伯耆バレーボールクラブが選ばれました。

地域貢献賞を受賞した小町集落は、鳥取大学医学部国際保健友の会ハクナマタと平成14年から交流を続け、農作業や地域の清掃、七夕や餅つきなどの交流会のほか、どろんこソフトバレーボール大会の共同開催など、住民と大学生が協力して、さまざまな地域活動に取り組んでいます。

また、スポーツ功労賞を受賞した伯耆バレーボールクラブは、小学生の各種県大会で優勝し、昨年8月に東京で開催された「ファミリーマートカップ第35回全日本バレーボール小学生大会」へ出場するなど、輝かしい成績を収めました。

賞を受けて、小町区長・遠藤光明さんは「1日でも長く笑い声のある集落でいられるよう、これからも活動を続けていきたい」と、伯耆バレーボールクラブキャプテン・三輪紗莉奈さんは「3月末にある全国大会に向けて頑張りたい」と話しました。



▲「笑いの絶えない活動を続けていきたい」と遠藤光明区長



▲3月末の全国大会に向け練習に励む伯耆バレーボールクラブ

3月4日(金)

母校の校歌残したい 溝口・日光小閉校を前に校歌CD収録

溝

口・日光小学校校歌のCD収録が3月4日、溝口小学校体育館で行われました。

両校は、児童減少のため4月から統合され、校歌も新しくなります。これを受け、溝口小学校・小澤敦彦校長は「閉校前に校歌を残したい」と思い立ち、伯耆町有線テレビジョンを手掛ける(有)メディアテックの協力で、CD収録が実現しました。

収録曲は、両校の校歌と「ふるさと賛歌」の3曲です。ふるさと賛歌は、15年前に日光小で教鞭をとった田川良久先生が在任中に作詞作曲したもので、当時から校歌同様に子どもたちに歌い継がれ、地域住民にも親しまれている日光の愛唱歌です。

歌には、溝口小5・6年生を中心とする有志15人、日光小の全児童・教員、溝口地域のコーラスグループ・コールフォールテシモが参加し、ふるさと賛歌には田川先生も伴奏で参加しました。

参加した子どもたちは「もう歌えなくなるのがさみしい」「自分の声が残ってうれしい」と話しました。



▲田川先生のピアノに合わせてふるさと賛歌を練習



▲緊張しながらも一生懸命歌う溝口小児童たち